

2018年度 けやき 事業報告

1.事業活動重点事項の成果及び課題

①生活介護事業

利用の状況（3月31日現在）

契約者数 14名（年度途中3名退所） 平均利用者数 11.9名（定員10名）

町村別内訳

茂原市	いすみ市	一宮町	睦沢町	大多喜町	大網白里市
7名	2名	2名	1名	1名	1名

障害種別（重複カウント有）

知的障害	身体障害
12名	6名

障害支援区分

区分3	区分4	区分5	区分6
1名	1名	2名	10名

（1）活動内容

- ・2グループに分かれ、年間計画、日課に基づいて創作活動、制作活動（けやき玉作り、和紙作り）、ウォーキング（散歩）、畑作業を行った。
- ・活動において一人ひとりの利用者に合わせて取り組みが出来るよう創意工夫に努めた。しかし、支援の方向性や具体的な支援の一つひとつの意味を職員間で共通理解する機会が少なかった。

（2）職員の資質向上

- ・発達障害の障害特性やその対応について職員が外部研修で学ぶ機会を持ち、実際の利用者支援上の行動観察における視点として生かすことが出来た。
- ・必要に応じて職員会議などでケースの検討を行った。しかし、利用者によっては緊急の課題がないために、結果的に取り上げられなかった方もいたため、利用者一人ひとりの理解が偏ってしまう傾向が見られた。

（3）身体機能や健康の維持管理の在り方

- ・摂食嚥下や運動機能障害についての基本的な知識を事業所内で研修し、歯科医師による摂食指導や理学療法士による指導を受けた。職員の知識や技術はまだまだ浅い段階であったが、それでも学習の機会は持つことが出来たとともに、少しではあるが専門的な視点をもって利用者を観察する力も養うことが出来た。

- ・理学療法士による指導が始まってから各利用者の運動機能改善やそれにつながる行動の変化が表れ、利用者自身の主体的な動きにつながる場面も見られた。一方で、「けやき」内だけでなく暮らしの場においても利用者の行動が広がることが予想され、それによる事故を防止するために保護者と行動面での情報共有をし始めた。

②青年学級（槇の木学園年長児 千葉県単独事業 職業指導を員加算）

- ・今年度は該当児童不在のため実施せず。

2. 運営について

<事業所指定更新>

- ・9月に事業所指定更新手続きを行った。その際、県より一松工房従たる事業所「けやき」の在り方に対する改善指摘を受けたことなどから2019年度より、旧けやきをすべて引き継ぐ形で、新規の生活介護事業所としてけやきを開設することとなった。

<医療衛生面>

- ・看護職員を中心に利用者の体調管理や介助方法などについて基本的なことを中心に丁寧に行うことを徹底してきた。
- ・インフルエンザなどの感染症流行シーズンの外出行事実施については検討が必要。
- ・利用者の体調不良時などは医療機関受診を速やかに行った。

<職員間の情報共有>

- ・活動時間中の利用者の異変などに気付いた場合はその場で職員同士が情報を共有し対応できた。
- ・打ち合わせ時間がとりにくい現状の中、掲示や回覧、時には口頭などの手段を工夫して情報共有に努めた。

<個別支援>

- ・個別的な余暇支援を今年度から始めた。保護者とも十分に打合せする中で各利用者にあった支援となるよう計画・実施した。職員勤務体制の課題はあるが、一人ひとりの利用者の新たな面を発見出来ることにつながった。また、保護者からも好評だった。
- ・利用者送迎（現在はバス停方式）から自宅送迎へのニーズが出ている。2018年度に向け自宅送迎の検討を始めた。